

令和7年度 第1回自己評価の分析

設問項目	肯定的回答（％）			分 析 内 容
	生徒	保護者	職員	
【設問1】 教育目標や教育方針の伝達	96	98	91	生徒、保護者、職員とも肯定的な回答であった。生徒で見ると「そう思う」と回答した生徒が53.3%、「だいたいそう思う」と回答した生徒が43.0%であった。これは、新年度の始業式から行事毎に学校教育目標について繰り返し話をしたためだと考える。今後は、ウェルビーイングとその深化とは具体的にどんなことなのかについて教職員が理解を深め、生徒にわかりやすく伝えていくとともに、行事等で学級や班、個人で目標を立てる際に、教育目標を確認しながら作成することで更にわかりやすく伝えていく。
【設問2】 情報発信	97	99	100	生徒、保護者、職員とも肯定的な回答であった。配信メールで、各種たよりとウィークリー西中を中心に学校の様子を伝えている効果であると考え。また、生徒への配付物について情報も知らせるなど、生徒と保護者に同じ情報が伝わるようにしたためでもある。今後も家庭への発信はこれまで通り継続し、生徒へは朝の会や帰りの会で連絡を確実に行うなど積極的に行っていく。
【設問3】 相談への丁寧な対応	93	96	96	生徒、保護者、職員ともに肯定的な回答であった。各学期はじめ（長期休業明け直後）に行われる教育相談、毎月はじめに取り組む生活アンケート、スクールカウンセラーとの全員面談、日常的な教職員の見守り、トラブルの防止・早期発見・丁寧な対応を教職員が心がけていることの効果であると考え。今後も、教育相談や生活アンケートから悩み等を読み取り速やかに対応するとともに、定期的な相談やスクールカウンセラーを含め幅広い相談相手として他学年の職員等の紹介を丁寧に行い、生徒や保護者との関わりを大切にして、信頼関係を獲得する努力を継続する。
【設問4】 わかりやすい授業	95	96	96	生徒の回答を見てみると、「そう思う」と回答した生徒が、1年生は61%、2年生は54%、3年生は33%だった。ただ、「ややそう思う」も含めるとどの学年も9割以上の肯定的な回答である。学年が上がるに従い学習内容が難しくなることも要因の一つだと考えられるが、授業者が生徒にとって分かるまで粘り強く教えていることが推察される。今後も、個別最適な学びを実現するために、生徒が自分自身に合った課題と向き合う時間を確保し、生徒が主体的に取り組む授業づくりに向けて継続した改善を図っていく。
【設問5】 学力向上のための授業の工夫 補習等	98	96	96	令和6年度より、夏季休業中に期間を設けて学年毎に自由参加の補習の時間を確保している。また、定期テスト前には放課後の補習の時間を開設した。さらに、定期テスト当日には、各教科のテストの直前にまとめや振り返りの時間を設けることで、生徒各自の基礎学力の定着を図っている。これらのことが肯定的な意見につながったと考える。今後も生徒や保護者、教職員の意見を反映させながら、復習の時間や補習の時間の確保を行っていき学力向上へつなげていく。
【設問6】 適切な評価	96	96	96	職員において4%が「あまり思わない」と回答している。この結果を踏まえ、生徒が納得のできる評価をし、不透明なところがあれば生徒に丁寧に説明するということを全職員で更に徹底していくことが課題だと考える。今後は定期テストや小テストを含めた授業内での生徒の活動の評価の方法について、校内研修を毎学期行い適切な評価が行えるよう努めるとともに、三者面談や通知表でその成果と課題をわかりやすく丁寧に伝えていく。
【設問7】 授業や進路に関わる質問への丁寧な対応	94	98	96	教育相談や三者面談にて進路についての話題を提供している。また、キャリア教育の一環として総合的な学習の時間を活用し、1年次に地域の職人を講師に招いた「職業人に学ぶ」、2年次に地域の職場に赴く「職場体験学習」と高校の先生を講師に招いた「専門学科を体験しよう」、3年次に卒業後の進路選択に向けた「進路説明会」を開催することで、進路についての意識付けを行っている。3学年では、高等学校の説明会や体験等の案内を配信メールで配信するとともに、進路室や学級掲示にて確実に周知している。授業内容に関する質問等については、机間指導等をより充実させ、質問しやすい雰囲気づくりと時間の確保をしていく。

設問項目	肯定的回答（％）			分 析 内 容
	生徒	保護者	職員	
【設問８】 学校設備	92	92	77	<p>生徒、保護者とも肯定的な回答であった。昨年度には、G I G A端末の使用回数の増加、電子黒板３台の活用率の増加、校舎の修繕、駐車スペースの整備等、少しずつ学校設備が改善されている。</p> <p>しかし、インターネット環境、冷暖房設備、電子黒板の配置数、インターロッキング等敷地内の凹凸の整備等が職員から課題として上げられている。これらについて、継続して市教育委員会へ改善を要望し、よりよい学習環境に向けた整備を行っていく。</p>
【設問９】 学校生活	94	92	100	<p>生徒、保護者、職員とも肯定的な回答であった。生徒で見ると「そう思う」と回答した生徒が５８％、「だいたいそう思う」と回答した生徒が３６％であった。これは、１学期にスポレク祭や校外学習、自然教室、修学旅行などの行事が行われたため、充実した学校生活を送れたのではないかと推測できる。</p> <p>しかし、否定的な回答が６％あるので、生徒理解をより深め、小さな変化や心配事等、速やかな初期対応につなげられるよう、教育相談等を活用して個々に対して組織的で丁寧な対応を行う。さらに、学校行事や授業等の教育課程の改善を図り、どの生徒も充実した学校生活を送れるようにしていく。</p>
【設問１０】 豊かな心の育成	96	97	96	<p>生徒、保護者、職員とも肯定的な回答であった。職員が、道徳・学活、総合的な学習の時間を含めた授業内で生徒自らが心を豊かにするために、教材研究に取り組み、考える時間と他の意見を共有する時間を十分に確保するなど、更なる成長を支援しているためだと考える。また、休み時間や登下校の見守り、休日における過ごし方の指導・助言等、様々な角度から生徒の豊かな心の育成を行っている。</p> <p>今後も継続して支援できるように、組織的な支援体制を整えていく。</p>
【設問１１】 いじめ防止	91	95	96	<p>これは設問９でも学校が楽しい場であると答える生徒がほとんどであった様に、学級や保健室、フレンドルーム、部活動等、安心して生活できる場があるということだと推測できる。</p> <p>今後は生徒会活動の「いじめ許さない宣言」を毎月振り返り、いじめや暴力は絶対に許されないという環境づくりに継続するとともに教育相談や生活アンケートの実施や隙間のない教員配置によりいじめの早期発見に努め、学校と家庭で連携しながら丁寧に対応していく。</p>
【設問１２】 間違っただ行動への指導	95	96	96	<p>T P Oに合わせた服装や言動、相手意識を考えた学校生活を指導の中心に据えている。このことにより、学年が上がるにつれ職員が注意せずとも集団の中でお互いに良好な関係を築くための言動がとれるようになってきている。</p> <p>今後も継続して見守りに取り組みながら、間違っただ行動に対して、今後も毅然とした態度で指導するとともに、生徒の話にもしっかりと耳を傾け、成長を促していく。</p>
【設問１３】 特別支援教育を含む生徒支援	92	96	96	<p>日頃の家庭連絡を丁寧に行っているため、保護者からの肯定的な意見が多くなったと推察される。しかしながら、８％の生徒が否定的な回答をしており、このことから、職員の理解不足や支援不足を感じている生徒がいることが分かる。</p> <p>これからも生徒それぞれの学習のニーズに合わせ、今まで以上に一人一人に寄り添い、指導や支援をしていく。特に３年生は進路相談も活用し一層支援を増やしていく。</p>
【設問１４】 あいさつ	91	85	86	<p>今年度も生活委員会によるあいさつ運動を行い、西中P R I D Eの１つであるあいさつの奨励について活発に取り組んでいる。職員があいさつをすると、元気なあいさつや会釈等、生徒それぞれのあいさつが返ってくる。また、先にあいさつや会釈をする生徒も見られるようになってきている。あいさつは社会で円滑な人間関係を築く大切なコミュニケーションスキルの１つである。意図について学級で繰り返し説明していくとともに、安心で明るい学校づくりをすすめていく。</p>
【設問１５】 交通安全	95	90	86	<p>生徒自身は注意しながら登下校していると回答しているが、その程度は車を運転する保護者や職員とわずかに食い違いがあると考え。実際、学校から離れるにつれ、並列走行や無理な追い越し等が見られている。今後も継続して早帰りの日や部活動休養日等に安全指導の巡回や見守り等を実施していくことで注意を促していく。また、生徒自身が加害者にも被害者にもならないよう、学級でも継続して安全指導を行っていく。</p>